SHOKO
平成16年11月30日　発行
広島県商工連会報
http://www.active-hiroshima.jp/
地域の活性化　ビジネスチャンスの創出　企業の育成
ひろしま夢いちば http://hiroshima-yumeichiba.jp/
広島県商工会連合会
〒730-0051 広島市中区大手町3-3-27
TEL082-247-0221 FAX249-0565
2004 11-30
VOL.325

平成16年度

中国ブロック商工会 青年部交流会開催

［主張発表大会で、広島県代表の佐藤大地さんが優秀賞に選ばれる］

福山市東桜町の広島県民文化センターふくやまで十一月十日、「平成十六年度中国・四国ブロック商工会青年部交流会」が開催され、中四国各県から地域発展のけん引役である若き事業家、青年部のリーダーたちが集まりました。

この交流会は、同ブロックの青年部員が一堂に会して研修会、交流会などの広域的な活動を行うことで、部員の資質向上と連帯、活力ある地域・青年部づくりを図ることを目的に毎年行われているもので、日ごろの活動の成果を発表するなどして部員同士の親睦や情報交換に役立てるとともに、部員の加入増強を図ることなどが狙い。交流会には、九県の商工会地域から七百九十名の青年部員が参加。中国経済産業局の村上英夫課長（奥村和夫局長代理出席）はじめ、藤田雄山広島県知事、羽田皓福山市長など多数の来賓を迎え、〝和〟をテーマに、主張発表中四国大会、記念講演、交流懇親会などの行事が行われました。

主張発表大会では、部員一丸となったバリアフリーのまちづくり施

策、異業者との交流を通して再確認した自社のあり方、部員減少で廃部の危機に直面しながらもそれを乗り越えた経験など、各県予選で選ばれた代表九名が〝青年部活動に参加して〟〝青年部活動と地域振興・まちづくり〟をテーマに主張を発表した。

広島県を代表して出場した新市商工会の佐藤大地さんは、青年部活動と地域振興・まちづくりをテーマに、新市の元気再生に向けた思いを発表し、〝人〟〝つながり〟〝元気〟の三つをキーワードに、幼い日に青年部員との交流のなかで感じた感動の思い出を振り返りながら、同じ感動を今の子どもたちに分け与え、青年部が扇の要となって町の元気を取り戻そうと呼びかけるなど、元気一杯に発表を行った。

審査の結果、独自のベンチャーキッズ事業で、子どもたち奮闘ぶりを通して気づいた、自社事業の発展こそが真の地域振興につながると発表した、島根県代表の伊藤浩さんが最優秀賞を受賞。来年一月に熊本県で開かれる主張発表全国大会に、中四国ブロック代表として出場することとなりました。地元の期待を一身に受けた佐藤さんは、聞き手に感動を与える豊かな表現力が高く評価され、優秀賞を受賞され、県青連一同の期待に十分応えていただきました。

広域連携をスタートして

山県東部商工会広域センター

はじめに

山県東部四町（大朝町、芸北町、千代田町、豊平町）の行政合併は、平成十七年二月一日に予定されており、合併すると人口約二万千人の町になる。

山県東部四町商工会は、平成十五年度に県連受託事業である広域連携モデル事業を実施し、県連からの指導のもと、地区内商工会職員が何回か会合を持ち、広域事業・地域商工会としての事業実施、調整等に取り組んできたことは、広域連携に大いに役立ったと思う。

広域センター設立

平成十六年七月一日に広島県商工会連合会加島会長と永谷事務局長をお迎えして広域センター設立の調印式と設立総会を開催した。

広域センターの会長には、大朝町商工会長石橋勇治氏を選任し、事務所は千代田町産業振興センターに置くこととなった。

現時点で商工会の合併は、平成二十年四月を予定している。

広域センター事務所の整備と取り組み

県連事業でパソコン一括整備事業を九月中旬に実施し備品等も整い、十月一日から広域センターが稼動している。

広域職員には、設立総会で選任、任命された、事務局長（一名）、事務局次長（一名）、広域経営指導員（二名）、地域担当経営指導員（三名）、広域担当指導職員（二名）の計九名体制で広域経営改善普及事業、講習会開催、経営革新セミナー、広域巡回指導を実施している。

特に経営指導員五名が広域センターへ勤務することで、各商工会の巡回指導、窓口指導が手薄になることを懸念して、指導員による巡回計画を立て、山県東部商工会地域は一つという認識の下に、各指導員が全町の巡回指導を実施し、会員に不安感を与えないよう努めている。

センターの方向性

来るべき商工会の合併を視野に入れての広域連携でなくてはならないと考えて、事業、業務の統廃合を検討、まず手始めに青色申告会の統合を計画し、地域内の青色申告会正副会長会議を開催した。

各青色申告会とも事業年度がまちまちであるので、各青色申告会の平成十六年度末の総会で解散決議をしていただき、平成十七年七月一日を青色申告会の合併時期とするようお願いして、各青色申告会役員会で調整していただくよう、合併計画書を渡した。

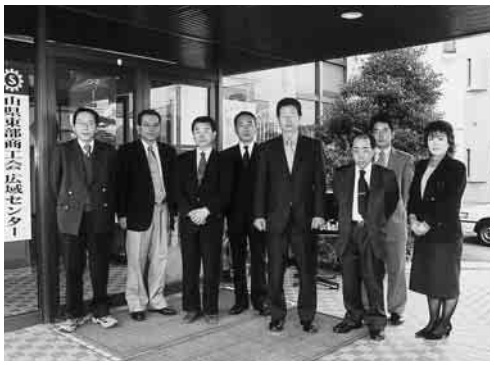
今後は、各商工会の青年部、女性部の統合について本年度内に会合を持ち統合について協議、調整していく予定であり、記帳機械化の統合についても協議を進める。

労働保険事務の統合も考えているが、この問題は、県労働保険事務組合連合会、労働基準局、との協議が必要になる。

広域連携・合併へ向けて、効率の良い健全な商工会運営をしていくには、広域センターの母体である、各商工会の理解と協力体制が絶対不可欠である。

今後の課題

商工会が法制化されて四十数年になるが、永年にわたり地域の特色を



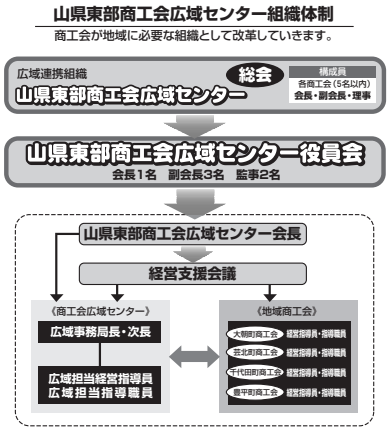
生かした各商工会活動が実施されており、商工会間の温度差が生じていることはやむをえないことであるが、広域連携を実施して、経営指導員による他町への巡回指導を通して、解消できるのではないかと期待している。

広域連携を実施して組織が大きくなればなるほど、職階制の問題等改善していかなければならない事項があることを痛感している。

商工会の職員は、会員のために存在する。ということを再認識し、全職員が持てる能力を出し切って会のため、会員のために完全燃焼すべきである。

広域センター案内

住　所　広島県山県郡千代田町有田一二三四―一
電　話　〇八二六―七二―五二二二
　　〇八二六―七二―五二七八
FAX　〇八二六―七二―五二二三
メール　ykouiki@hint.or.jp



合併のプロセスとして広域連携を推進する

平成16年度 「わが街ふるさとは元気です！」事業の実施

広島カープ

本県連では、一昨年度から行っている広島東洋カープ球団との提携による「わが街　ふるさとは元気です！」事業を今年度も引き続き実施し、地元広島のスポーツ・文化の振興を支援する経済団体としての〝商工会〟を広くPRしてまいりました。

同事業には今年度、本県連ほか八商工会が事業参加し、県内全域から延べ四百二名が観戦ツアーで広島市民球場を訪れ、赤ヘル選手の活躍に盛んな拍手と声援を送りました。昨年度の六十八名を大きく上回る数で、同事業の順調な推移を示すと同時に、広島のプロスポーツ活動の支援を通して県民生活の満足度をより高め、商工会地域の活性化を図ることにも大きな役割を果たしたといえるでしょう。

球場内のアストロビジョンを活用したふるさと情報の発信、サンプリング商品の配布などで商工会地域を広く県民にPRし、さらに地域間、世代間交流の促進や子供たちの夢を大きく育むことができたのは、より広範な地域社会への貢献につながったものと思われます。

サンフレッチェ広島

本県連では昨年十月、同事業のサンフレッチェ広島版を試験的に実施。あいにくの雨模様のなか、県内各地から二百名を越える観戦ツアー客がビッグアーチを訪れ、プロサッカー選手たちのプレーを見守りました。

初の試みにも関わらず、多数の事業参加を得られたことは来年度以降の本格実施の弾みとしたい狙いどおりで、本県連では従来の広島東洋カープ版と合わせて、同事業を通じてサンフレッチェ広島のサポートもこれまで以上に力強く行っていく考えです。

本県連および各商工会は、広島のスポーツ・文化活動の支援を行い、いつも地域のみなさまの近くにある経済団体でありたいと考えています。本県連が推進するスポーツ・文化活動の支援は、〝商工会〟のイメージアップを図るものだけでなく、地域の活性化、明るい地域社会の形成をめざすためのもので、この趣旨をご理解のうえ、来年度以降も同事業につきましてご協力いただけるようお願いいたします。

Copyright (C) 1992 s.fc

中小企業診断士養成課程を修了して

安芸町商工会
大形　光昭 指導員

今年九月に中小企業診断士養成課程（第五十二期）を無事修了し、十月一日付けで経済産業省に登録しました。研修受講に際しましては、多くの方にお世話になり感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

研修の内容は十科目の座学と机上自習、及びそれを三回に分けての筆記試験。商業診断実習・製造業診断実習・インターンシップ実習・総合診断実習の四回の実習でした。

筆記試験の合否は、あくまで個人の能力次第ですが、六名から七名の班による診断実習は、個々の能力のほかに診断先の企業のことを第一に考え激論を交わし提案書を作成していくチームワークが非常に重要でした。

商工会をとりまく環境は大きく変化していますが、これまで以上に会員のために団結し感動できる仕事が出来ればと思っています。

そして、出来るだけ早く出来るだけ多くの方が、この養成課程に受講出来ればと祈念しています。

一年間の研修を通して企業支援に必要な様々なスキルを学びましたが、この経験を活かせるよう努力していきたいと思いますのでご指導ご鞭撻をよろしくお願い致します。

平成16年度 広域講習会

「モノ」を売るな!「体験」を売れ!
「エクスペリエンス・マーケティング」
～明日からすぐ、ちがいをつくるための、
商品戦略・サービス戦略～

フリーパレット集客施設研究所
主宰 **藤村 正宏**

県連では、十一月五日㈮、広島市のホテルセンチュリー21広島において「平成十六年度広域講習会」を開催した。

講師は、**フリーパレット集客施設研究所 主宰 藤村 正宏先生**で、学生時代演劇学を専攻され、ニューヨーク大学で映画製作の勉強をした経歴をもち、水族館、博物館、テーマパーク、レストラン、ショップなど各種集客施設を企画設計されている。

ヒトの潜在意識に影響する要素を注意深く分析して企画に取り入れるほか、体験を売るという「エクスペリエンス・マーケティング」の考え方で集客施設や会社のコンサルティングも手がけられている。

当日は、**『「モノ」を売るな！「体験」を売れ！』**をテーマにお話をいただいた。

世の中は不景気といわれるが、高くても売れるものは、たくさんあると言う切り口から、コストをあまりかけない手法で圧倒的な成果をあげている、独自化で成功したタクシーや万年筆専門店、チラシ・POPで成功した居酒屋、洋服の仕立て屋、住宅メーカー、薬屋、本屋など、先生の口から飛び出すおもしろい多くの具体的事例に場内から笑いがたびたび起きた。

先生からの「レストランは、食事をするだけの場所でしょうか」の問いかけで商売の原点を見直すようなお話や「とにかくやってみる、ダメだったら変えればいい」の声に受講された商工会員は勇気づけられたことと思います。

講習会終了後、受講者から「大変おもしろくて、よかった」との声が多く聞かれた。

県連では、是非この講習会で得られたことを一つでも実践され、元気な事業者が増えていくことを祈っております。

ふるさと発見 日帰りバスツアー

《安浦町》

十一月十八日㈭県連主催の本年第五回目となる「ふるさと発見日帰りバスツアー」は「安浦の歴史と郷土料理・陶芸教室」をテーマに瀬戸内海に面し、島並みと「かき筏」が多く散在し、風向明媚な安浦町へ向け出発した。

あいにくの小雨模様であったが、現地で出迎えていただいた地元ボランティアガイドの説明を受けながら、野呂山山頂を散策、グリンツーリズムを満喫した。

その後、弘法寺へ移動し、総代より弘法寺の由来について説明があり、一六〇〇年前、弘法大師が修行したこの地に思いをはせた。

昼食は、創業塾受講生が安浦町で開業している海鮮工房「潮家」で郷土海鮮料理、グリコーゲン豊富な三倍体のかき「かき小町」の焼き物、瀬戸内海産の地あなご、刺身、天ぷら、鍋物などに舌鼓を打った。

食後は、安浦町中公民館において、安浦町友愛大学のメンバーの指導を受け「ろくろ」や「タタラ」の方法による陶芸製作を体験した。参加者は、時間を忘れる程熱心に製作し、そのまま店頭で販売できそうな力作も数多く完成した。これらの作品は、色づけされ、窯で焼かれ、一ヶ月後に自宅に配送される予定で、参加者にとって、大きな楽しみとなった。

見学の最後は、地元商工会青年部がギネスブックに申請したエピソードも残っている穴場的名所のコンクリート船「武智丸」。現在は海の守り神として、防波堤に利用され、一見、コンクリートのかたまりであるが、第二次世界大戦中は、軍需物資の輸送用に実際運航していたという珍品である。

現存するものが、日本に一～二ヶ所しかなく、大変珍しいが、地元でもあまり詳しく知られていないそうである。これには、参加者も感心しきりであった。

コース最後のメニューは、ゆっくり疲れを落として帰ってもらおうと、グリーンピア安浦「お湯都ぴあ」。七種類の湯舟をもつ、準天然温泉トゴール湯に入浴して、地元特産品などの買物を楽しんだ後、広島へ向け帰路についた。

今回のバスツアーは、広島から約一時間で行ける場所で、ややもすると何回も見学したと敬遠されがちなコースであるが、地元の商工会やボランティアが練りに練って、一般客では味わえない手作りコースの良さを存分に発揮し、参加者に満足いただけるコースに仕上げていただけたものと思われる。

地元商工会並びに関係者の方々に、この場をお借りし、心からお礼申し上げたい。

第20回 女性部親善 ビーチボールバレー県大会開催

十月二十一日㈭、広島県立総合体育館に於いて、広島県商工会女性部連合会主催による第二十回女性部親善ビーチボールバレー県大会が開催された。

県内五ブロックの予選を勝ち抜いた三十二の代表チームが参加し、本大会（十九チーム）とシニア大会（十三チーム）に分かれて熱戦が展開された。出場選手、応援団などを含めて約三百名が小アリーナにつめかけ歓声と声援が響き渡った。

本大会、シニア大会の入賞チームは次のとおりです。

○本大会

優勝	瀬野川町商工会女性部	
準優勝	高宮町商工会女性部	
三位	美土里町商工会女性部	
四位	三良坂町商工会女性部	

○シニア大会

優勝	大朝町商工会女性部	
準優勝	御調町商工会女性部	
三位	能美町商工会女性部	
四位	向原町商工会女性部	

全国商工会 会員福祉共済

こんな時でも安心。

福祉共済があなたの暮らしをまもります。

作業中、機械に巻き込まれてケガをした。

車にひかれてケガをした。

煮たった鍋をひっくり返して、やけどをした。

犬にかまれケガをした

階段から落ちて骨折した。

バイクで転倒してケガをした。

- 掛金・共済金は、年齢・性別・職種に関係なく一律！
- 充実した入院・通院補償！
- 手術にも手厚い補償！
- 国内外・２４時間フルカバー！
- 高水準の入院補償と死亡補償を両立！

新タイプの誕生で、ますます加入しやすくなりました！

月額2,000円タイプと1,000円タイプがあります。詳しくは商工会へお問い合わせ下さい。

第44回 商工会全国大会開催

「商工会の魅力をより一層高め、これまで以上の組織力強化を」

さる十一月二十五日、東京都渋谷区のNHKホールにて「第四十四回商工会全国大会」が開催されました。

杉浦正健内閣官房副長官、保坂三蔵経済産業副大臣、山口信夫日本商工会議所会頭、望月晴文中小企業庁長官をはじめ多数の来賓を迎えた同大会には、全国二千八百余りの商工会から代表者ら約四千名（広島県からは五十三商工会六十二名が参加）が出席。

開会に先だち、大会会長あいさつとして全国商工会連合会の清家孝会長は、輸出・生産の増加による企業収益の改善や堅調に推移する個人消費等により、景気回復の途上にあるが、地方経済における中小企業、とりわけ小規模企業は、未だ景気回復を実感できる状態にはないことについてふれ、併せて、国の税財政改革による地方税財政の見直しをはじめ、市町村合併の進展による行政区の再編、中心市街地や商店街の衰退による「まち」機能の著しい低下など、一層厳しさが増していると強調。

さらに、「地域に根ざした総合経済団体として、商工会が地域社会からの期待に応えていくためには、中小企業にとって真に必要とされる経営支援事業を積極的に展開するとともに、これまで培ったきた支援機能を遺憾なく発揮し、山積みする諸課題を着実に解決していくことが必要である」と地域の総合経済団体である商工会が果たすべき役割、決意について力強い意気込みを示しました。

来賓祝辞の後、「小規模事業対策に対する継続的な国の関与」「着実な景気回復の実現」「まちづくりの推進」「企業力向上のための中小企業政策の拡充」「商工会の組織力・財政力の強化と中小企業支援機能の向上」の五項目について意見表明が行われ、西本和馬大会副会長（岡山県連会長）が大会決議（案）を宣言し、満場一致で決議されました。

続いて、表彰（経営改善普及事業・先駆的事業優良商工会等表彰・事業推進優良商工会等表彰）、青年部・女性部の主張発表、先駆的事業優良商工会等紹介ビデオが上映された後、各政党代表（自由民主党：武部勤幹事長、公明党：太田昭宏幹事長代行、民主党：藤井裕久代表代行）のあいさつ、並びに来賓の紹介が行なわれ、大会は盛会裡に終了しました。

第18回ニッポン全国むらおこし展盛大に開催！

全国からの5000品目に来店客満足！

十一月二十六日㈮～二十八日㈰の三日間、東京池袋サンシャインシティにおいて、「第十八回ニッポン全国むらおこし展」が今年も盛大に開催された。

広島県からは呉地区や大崎上島の広域連携による事業者や、今年度広域連携事業を行っている神石高原商工会広域センターを含む七事業者が出展。熊野の筆・広島カキ・鯛めし・松きのこ、広島のお酒等、広島県を代表する特産品が多数出品された。この物産展に併せ約二百三十人のバイヤーが訪れ、どの特産品が流通ルートに載せられるかと鋭い目を向けていた。特に甲山町の㈲東洋きのこ農園の「松きのこ」、神石高原商工会広域センターの「トマトジャム」などに多くのバイヤーが関心を示し、業者から説明を受けていました。

また、特産品コンテストの食品部門に「蒲刈酒どうふ」など六点、非食品部門に比和町の「竹炭花器」が出品され、その他、イートインコーナーには大崎町商工会の㈲鮮魚うちうらが鯛めしを実演販売し、好評を得た。

今年は広島県が中国五県の幹事県として、昨年に引き続いて「わくわく抽選会」を行い、各県から提供された特産品がはずれなしで当たり、買物客に大変喜ばれた。

このたびは、呉広域八町の商工会や神石郡四商工会が広域で取り組み、特産品の売込みに汗を流し、広域連携事業の一環として大きな成果があった。

全体の入場者数は、三日間で約十四万三千人、売上は、約一億一千万円、広島県の売上は、約百九十六万円であった。

広域商工会青年部活性化事業

ペットボトルロケット大会

参加商工会　安芸津町、黒瀬町、福富町、豊栄町、河内町

実施時期　平成十六年九月五日

実施場所　安芸津町民グランド

五町の青年部合同にて、青少年育成事業の一環として、自分の手でロケットを作ることにより、創意工夫する心を養い、自ら創りだす事の素晴らしさを体感してもらうことを目的にペットボトルを利用して作ったロケットを飛ばし、その飛距離を競う大会を企画した。大会に先駆け、ペットボトルロケットの作り方教室を各町で開催した。

参加者募集は、各町の小学校等への呼びかけ、新聞折込、ホームページなどを通じ募集を行い、スムーズな運営のため、東広島市周辺の安芸津、黒瀬、福富、豊栄、河内の各町商工会青年部が実行委員会を発足させ、準備をおこなった。

実行委員会では、応募のとりまとめ、ロケットの作り方教室を各町で開き指導を行った。小学生以上（大人だけの組除く）の百五十組三百人を募集する。

参加料は二人一組五百円。

大会は九月五日同大会実行委員会（中村昌典委員長）主催で開かれ、会場となった安芸津町町民グランドには、事業に参加した五町のほか、東広島市、安浦町などからの児童を含めた約百五十人が参加し、二人一チームで飛距離を競いあった。約一・五リットルのペットボトルタンクとして使用するロケットは大会の規定に従って各チームが作成。

優勝したのは、百三メートルの記録を出した地元風早小学校三年の寺岡渉君と弟の伸君で「まさかこんなに飛ぶとは思わなかった。優勝できてうれしい」と笑顔で語った。

新規創業事例

小町きもの

創作飾り着物工房

代表者　村橋こまち
開業日　平成16年7月29日
店舗名　「小町きもの」
所在地　江田島市江田島町切串5-7-1
電　話　0823-44-1077
Eメール　info@komachi-kimono.com
URL http://www.komachi-kimono.com

平成十五年度広島県商工会連合会の創業塾を受講された「村橋こまち」さんが、「飾り着物・布装飾品」工房を開業されました。

■開業の動機・経緯

村橋さんは、主婦の傍ら、長年にわたり着物の仕立て・人形着物の制作に携わり、着物の仕立て等を通じ多くの方々との関りの中で、「形見分けの着物・使わなくなった着物を飾っておきたい」という声を耳にしてきました。

日本文化の象徴である着物を飾る習慣がないのは寂しいことであり、美しい着物を飾る喜びを味わってもらうために、広い場所をとらずに手軽に飾ることができる「小さい飾り着物の創作」「着物の布を利用した装飾品の創作」を通じて社会に貢献できたらとの思いで飾り着物工房の開業を決意しました。

開業後の現在、江田島町商工会に加入されています。

■事業内容

着なくなった着物や形見の着物な

メイト
ホリデイ
人が好き。地球が好き。旅がスキ。
主催 近畿日本ツーリスト
運輸大臣登録一般旅行業第20号　(社)日本旅行業協会会員
広島イベントコンベンション支店
広島市中区八丁堀16-11(日本生命第2ビル1F)
☎(082) 221-6111(代)
支店長：上川　正芳

助けあって、しあわせづくり
県共済
広島県火災共済協同組合
広島県中小企業共済協同組合
〒730−0048　広島市中区竹屋町4番17号
電話(火災)082(243)2221(代)　FAX 082(246)1525
電話(中小)082(244)7455(代)　FAX 082(247)0953

どを飾りやすいサイズに小さく仕立て直しを行っています。

・仕立て代は二万円（二十センチ以下）から三万五千円（五十センチ～一メートル）

・飾り着物専用の衣桁（いこう）は別途注文。九千円から一万五千円

着物などお持ちでない方もご相談でき、ギャラリーには作品を展示していますので、気軽にお店にたち寄ることができます。

村橋さん夫妻は、海の見える田舎に住みたいとの強い思いで、十年前に広島市内から江田島町の切串に引っ越しされた。現在、ご主人が同じ場所で衣桁制作の「工房　廣」を経営。閑静な海の見える自宅で、着物創作・衣桁の創作に夫婦二人三脚で息の合った事業経営に取り組まれています。理想の場所で自分の好きな仕事を夫婦で行う、まさに理想の生活といえましょう。

■今後の展開・抱負

ホームページ、テレビ・新聞記事に取り上げてもらう等、当店の存在を知ってもらうための広告・宣伝を行っていきます。旅館、日本料理店等へ戸別訪問し、飾り着物の良さのPRと営業活動を推進されるなか、来年には広島市内のデパートでの個展も予定しています。

村橋こまちさんから一言

古い着物をほどくとき、その着物の生地・縫い目のひとつひとつから着ていた人の愛着・人生を感じ、持ち主と一体感になる不思議な気分になります。

自分が手を加えることによって一着の着物が生き返る喜び、その都度違う布との出会い、新しい人との出会い、毎日が新鮮な出会いの連続です。

（支援センターコーディネーター　木村　武則）

経営革新事例

妹背製菓

地元料亭と連携した「和みのお菓子」のブランド化

代表　伊藤彰二
広島県佐伯郡大野町原2丁目2-17
電話　0829-55-0161

■経営革新取組の動機

当社は明治四十五年創業、和菓子を製造販売。現在の代表で四代目である。業歴の長い和菓子店であり、以前からファンの多かった当店オリジナルの「最中」や「きんつば」があるものの、一般顧客への自社ブランドの確立には至っていない状況にあり、当店の最も得意とする和菓子の特色ある商品開発・ブランド化が大きな課題となっている。

現在、近くの観光地「宮島」ゆかりの大河ドラマ構想や、宮島口商店街活性化事業の「お菓子の通り」づくりの構想等和菓子は潜在的な需要が見込める状況にある。この機会を活かし、自社商品のブランドの確立と加工技術の導入・ネット販売事業の展開により、経営の革新を図ることとなった。

■取組内容・支援内容

中小企業診断士の江川雅典先生と大野町商工会岩田経営指導員の支援

TOKIO MARINE NICHIDO
東京海上日動
広島中央支店
広島市中区大手町1-2-1　〒730-8730
Tel.082-247-5762

全国商工会経営者休業補償制度
病気やケガで働けない間、月々の所得をワイドに補償します。

所得補償保険制度の魅力

1有利な保険料	52%割引。最高水準の割引率です!(所得補償保険団体契約)
2ワイドにガード	国内、海外、業務中、業務外での病気・ケガによる休業補償!
3安心の補償	天災が原因のケガによる休業も補償!
4手続き簡単	加入時の医師の診察は原則不要。いつでも加入できます。
5ロングな補償期間	補償期間は365日ありますので安心して充分な医療が可能です。

により、「自社ブランドの再構築」をテーマにした経営計画の策定を行った。

今後の事業所の発展性を考えた場合、経営理念・経営目的を再確認・決定し、事業所全体の経営資源を余すことなく使うことで道は開けてくると確信し、時間をかけてヒヤリングを行い、企業目的を「**お菓子のおいしさの旬を提供する**」に決定した。経営理念・企業目的を踏まえ、経営革新のテーマを「**地元料亭と連携した『和みのお菓子』のブランド化と急速冷凍加工技術を活用したネット販売事業の展開**」と設定し、平成十六年五月に経営革新支援法の革新計画承認申請書を提出、六月に県知事により承認された。

現在取引している地元有名料亭と連携して、食文化にこだわりを持つ顧客をターゲットに、「和み（なごみ）」ブランドの和菓子の商品を開発する。その上で、急速冷凍技術の導入と、お客様用解凍レシピの作成により、製造から「旬」を食するまでの商品供給システムを構築し、広範囲な情報ネットによる販売を展開していく。

■取組のメリット

①漠然とした思いはあるものの経営理念を言葉として具現化していなかった。今回経営理念を明確化したことにより、企業目的・経営方針が定まり思いきった判断をすることができた。②当社は業歴の長い老舗和菓子店であるが、現在に至るまで店舗を運営する計画は商品製造計画だけにとどまっていた。今回、商品開発・製造・販売計画を策定することにより、三年後、五年後の姿を描くことができたことが取組のメリットである。

今年度中の新商品の開発、二年後のブランド確立、三年後の提供システムの確立を目指して革新計画を実施していく予定である。

（支援センターコーディネーター　木村　武則）

ひろしま夢ぷらざの人気商品を「むらからまちから館（東京）」で販売

本県連では、十一月二十三日㈷から三日間、東京都千代田区有楽町で全国商工会連合会の運営する特産品のアンテナショップ「むらからまちから館」において、ひろしま夢ぷらざの選りすぐりの商品を持ち込んでのイベント「広島県　海と山　秋の収穫祭」を開催した。

「むらからまちから館」は、ＪＲ有楽町駅前に位置し、北海道・秋田・富山・和歌山など各県のアンテナショップが立地する東京交通会館の一階にあり、全国の特産品を首都圏の消費者に紹介するアンテナショップで、全国各地から集めた特産品が常時千点以上並び、一日の平均来店客数が二千人を超える人気店で、今回のイベントは同店の持つ集客力を生かし、特産品を通じた広島県のイメージアップや認知度を高めるとともに、県外への販売ルートの開拓を目的に今年度の目玉事業として企画したものである。

店頭ブースでは、初日は倉橋町宮原水産の「いりこ・ちりめん」、二日目は甲山町　東洋きのこ農園の「松きのこ・松なめこ」、最終日は下蒲刈町の海駅三之関の「姫ひじき・姫ひじきの塩・みかん・レモン」など、連日十万円を超える売上を記録した。

「むらからまちから館」の日高マネージャーによると、「店頭イベントは一週間で五十万円を目標にしていただいているが、平日で五万円、土日祭日で七～八万円が平均的な売上である。三日間連続で十万円を記録するケースは稀である。」とのこと。

特に「松きのこ」や「いりこ・ちりめん」などは、日高マネージャーが直接仕入れの条件を確認するなど、「むらからまちから館」の関係者や百貨店のバイヤーなどの関心を集めた。その他、ひろしま夢ぷらざの売れ筋商品では、ウリ、キュウリの粕漬けやオリジナル開発商品である田總（たぶさ）塩羊羹・カーターピーナッツ、今年度の新規開発商品である「姫ひじき塩使用の塩海苔」が、消費者の興味を集めた。

ひろしま夢ぷらざの商品が他のアンテナショップで売られるのは、四月に福山市本通で福山商工会議所の運営するアートショップ「ふくふく」で開催したイベント以来、二度目である。

行事日程

▼**税務金融委員会**
〔県連会議室〕
平成十六年十二月一日㈬

▼**簿記検定（三級）**
〔県連会議室〕
平成十六年十二月三日㈮

▼**正副会長会議**
〔県連〕
平成十六年十二月七日㈫

▼**平成十六年度第二回広島県商工会指導職員研修会**
〔鯉城会館（広島県民文化センター）〕
平成十六年十二月九日㈭

▼**平成十六年度第五回商工会連合会専務理事会議**
〔全国連〕
平成十六年十二月九日㈭

▼**役員会**
〔メルパルク広島〕
平成十六年十二月十五日㈬

▼**「ひろしま夢ぷらざ」出展事業所・団体等講習会**
〔メルパルク広島〕
平成十六年十二月十六日㈭

▼**中国・四国ブロック商工会連合会会長・専務・局長会議**
〔松江市・松江東急ホテル〕
平成十六年十二月二十日㈪・二十一日㈫

知的財産タウンミーティング in 広島

■開催主旨

政府は産業競争力の強化を目指して、昨年７月の「推進計画」の策定に続き、本年５月「推進計画2004」を決定しました。この中では、技術力の向上と共に、デザインによるブランド化も提唱されています。

日本弁理士会ではこの推進計画に基づいて、大学・研究機関と地場産業の強力な結びつき、人的ネットワークの形成、技術情報などの経営資源の共有を通じて、活力ある新規事業が創出されるよう、各地域において「タウンミーティング」を開催し、少しでもお役に立ちたいと切望しています。

今回のパネルディスカッションでは、市場優位性を獲得する有力な手段である「ブランド化」について、その手法などの一端を紹介したいと思います。

主　催　日本弁理士会

共　催　広島県

後　援　特許庁、中国経済産業局、広島市、中国経済連合会、広島商工会議所、広島県商工会連合会、(財)ひろしま産業振興機構、(社)発明協会広島県支部、(社)中国地域ニュービジネス協議会、広島県中小企業団体中央会

日　時　平成17年1月27日(木)
午後1時開演

会　場　「広島県民文化センター」
広島市中区大手町1-5-3　TEL（082)245-2311

対象者　一般（企業、学生等）

参加料　無料

募集人数　300名

プログラム

● **開会挨拶**　13:00
日本弁理士会　会長　木　下　實　三

● **基調講演**　13:10～13:50
テーマ：「知的財産制度を利用した地域活性化」
講　師：小　島　康　壽　氏（内閣府知的財産戦略推進事務局　次長）

休憩10分

● **特許エンターテイメントセミナー**　14:00～15:00
※弁理士劇団の寸劇により知的財産制度を平易に説明

休憩10分

● **パネルディスカッション**　15:10～16:30
□テ　ー　マ：「県内企業のブランドを利用した活性化」
□パネリスト：県庁関係者（1名）
：代表者　大谷博國 氏　株式会社「にしき堂」
代表者　三宅清嗣 氏　株式会社三宅本店
：中小企業診断士　河合正嗣 氏
：弁理士　岩本牧子 氏
コーディネーター　弁理士　峯　唯夫 氏

● **閉会挨拶**　16:35

広島市信用組合
広島県信用組合
信用組合 広島商銀
呉市職員信用組合
両備信用組合
備後信用組合

コミュニティバンク
信用組合

広島県信用組合協会
広島市中区宝町九番十一号
電話(〇八二)二四七―七三六三